

◎作詞：涌井俊一（高商3年生／昭和31年卒）

◎作曲：丸田昭三（作曲家・音楽理論家／東京芸術大学出身）

昭和30（1955）年、高商創立40周年を迎えるに当たり、校歌・応援歌（第一）に続く第二応援歌を作成する機運が生じた。

第二応援歌作成にあたり、近隣他校の事例なども参考にしながら作詞・作曲について種々の検討がなされた。そしてまず歌詞について、専門家に依頼するのではなく、全校生徒対象に公募の形で第二応援歌々詞の募集が行われた。

短い募集期間ではあったが生徒から多数の応募作品が寄せられ、その中から当時3年生（D組／高田市本町2在住）の涌井俊一君の作品が選ばれた。校長室にて学校長より賞状と金一封が涌井君に贈呈された。

また、曲については彼の担任の竹内豊治先生（東大出身、後の高田高校々長）が、自身の友人である丸田昭三氏（作曲家・音楽理論家／柏崎市出身）に作曲を依頼した。格調高い詩にふさわしく、勇壮な曲調のうちにも歌いやすく流麗な旋律の曲が生まれた。

今日まで校歌・第一応援歌と共に、体育祭、対外試合等に歌い継がれている。



涌井俊一 君



竹内豊治先生

<丸田 昭三>

丸田 昭三（まるた しょうぞう、1928年 - ）は日本の作曲家、音楽理論家。

東京芸術大学で石桁真礼生に師事。1958年～1960年にミュンヘン音楽大学でハラルド・ゲンツマーに学ぶ。作曲グループ「環」の会員。作品はピアノのための「ソナチネ」、代表作である弦楽四重奏のための「イントロダクションとパッサカリア」があり、いわゆる芸大和声の教科書の執筆陣の一人でもある。

1955年、第24回日本音楽コンクール作曲部門（第1部（管弦楽曲））3位入賞。

◆収録作品

桐朋学園子供のための音楽教室『こどものための現代ピアノ曲集 1（世界音楽全集）』春秋社、1967年3月31日。ISBN 978-4393914311

作曲「ソナチネ 1.アレグロ・モデラート」収録。

◆著書／共著

石桁真礼生、末吉保雄、丸田昭三、飯田隆、金光威和雄、飯沼信義『楽典—理論と実習』音楽之友社、1998年12月10日。



出典：Wikipedia

◆第二応援歌々詞

一. ^{あらなみ} 荒波さかまく ^{にほんかい} 日本海
^{とどろ} ^{どとう} ^{ひく} ^み
 轟く怒涛 低く見て
^{こし} ^{へいや} ^{しゅうれい}
 越の平野に 秀麗を
^{ほこ} ^た ^{みょうこうさん}
 誇りて立てる 妙高山
^{けだか} ^{あお} ^み
 その気高さを 仰ぎ見て
^{ひごろきた} ^{うで}
 日頃鍛えし この腕を
^{いま}
 今ぞ ここに あらわさん

一. ^{むかし} ^{しの} ^{しろあと}
 昔を偲ぶ 城跡に
^{はる} ^{さくらばな}
 春らんまんの 桜花
^{はなふぶき} ^せ ^お
 その花吹雪 背に負いて
^も ^た ^{はき} ^{わこうど}
 燃え立つ 覇気の 若人の
^{とうし} ^も ^た
 闘志は燃えて こぞり立つ
^{きた} ^{てつ} ^{うで}
 鍛えあげたる 鉄の腕
^{いま}
 今ぞ ここに あらわさん

◆第二応援歌楽譜

(1) あらなみ さかまく に ほんか
 い とどろく どとう ひくくみ
 て こしのへいやに しゅうれい
 を ほこりて たてる みょうこうさん
 さん そのけだかさを あおぎみ
 て ひごろきたえし このうで
 を いまぞ ここに あらわさん (2) む